非浸潤性乳がんに対する放射線療法

広範な非浸潤性乳がんに対しては乳房切除がしばしば行われる。また、そのほかに Skin sparing mastectomy、乳頭温存乳房切除術も行われることがある。限局性の病変に対して乳房部分切除を行った後は放射線治療を併用すべきである。非浸潤性乳がんの手術後に放射線治療を行う意義は NSABP B-17 や EORTC(European Organisation for Research and Treatment of Cancer)で検討された。NSABP では乳房部分切除の断端陰性例に放射線治療を行って、浸潤性乳がんの発生が 16.8% から 7.7%に、非浸潤性乳がんの再発が 14.6% から 8.0%に減少した。EORTC でも浸潤性乳がんの発生が 13% から 8%に、非浸潤性乳がんの発生が 14% から 7%に減少した。